



リスペクト

数年前、日本サッカー協会（JFA）の九州地区理事と「学校の部活動（サッカー）」について話したことがあります。そこでの話を思い出しながら書きます。

私自身、正直、「部活をやりて学校にいきます」「土日は思いっきり練習や試合ができてうれしい」そういう生徒だったかもしれません。多くの友人も似たような感じであり、それが当たり前だと思っていました。ところが、最近の学校では、「部活動はブラック」「部活動で家庭崩壊」ありゃ？このままでは部活動の存続は危ないと言う人もいます。本年度4月の文部科学大臣の会見でも、「部活動の地域移行」や「教員の働き方改革を踏まえた部活動改革」の話がありました。

私は教員採用試験を受ける際、部活動の指導をしたいから小学校の教員にはならなかった思い出があります。しかしながら、中高生の部活動指導をする中で、指導者の私たちは力が入りすぎていたのかもしれません。夢中になって、大切なことを見過ごしていたのかもしれません。昔は、「練習中や試合中に水を飲むな」「一日休めば三日遅れる」それを信じて、必死に食らいついている指導者もいました。社会が進歩するのと同じようにスポーツの世界も進歩しているのに……。

適切な水分補給は常識、練習の効果は休息と栄養摂取の相互作用、そして、スポーツだけでは人としての成長は期待できない、スポーツ以外の活動が競技成績を引き上げる、これは、まさに部活動だからできるのに……。

ヨーロッパや南米のサッカー強豪国には、当たり前のようにサッカーが日常にあります。日本代表チームや日本の一流のサッカー選手は、日本のサッカー文化が育てています。サッカーを楽しみ、身近に感じる仲間を増やすことで文化は醸成されます。部活動は、ヨーロッパや南米の強豪国にない日本独自のスポーツ文化です。だからこそ、部活動は日本サッカーの将来を支える重要な活動だとも言えます。「プロの選手や日本代表選手になりたい」。サッカーに取り組む多くの生徒がもつ夢です。プロ選手はJFAの登録されている全選手のわずか0.2%です。厳しい世界になります。しかし、夢をもって、目を輝かせながら、サッカーができる場は絶対に必要だと思います。私もその指導の中で、数名の教え子Jリーガーが生まれました。また、多くの教え子が、今もいろんな学校で指導者として育成に携わっています。

教師だからこそ作り出せるステキな環境があるはず……。

私は、部活動保護者会等において、『部活（サッカー）を学ぶ、部活（サッカー）で学ぶ、部活（サッカー）が教える』というフレーズに関連付けていろんな話をしていました。これは、部活動の目的に置き換えることができるキャッチフレーズです。

サッカー部に入部する多くの生徒はサッカーを楽しみたい、うまくなりたいたいという思いが第一にあると思います。だから、サッカー部の運営や指導は「サッカーを楽しむ、うまくなる」ために、合理的かつ効果的になるよう工夫しなくてはなりません。簡単に例を示すと、全員での準備・片付け、一人1個のボール、全員にゲームができる試合環境を与える等。そして、サッカーを通してフェアプレー、協調性、自律などを学ぶことになります。しかしながら、社会性の学びはサッカーだけでは不十分であり、サッカー以外の時間への配慮が必要だと思います。

私自身が指導の根幹の考えとして大切にしている「リスペクト」という言葉は、フェアプレーの原点であり、サッカーにおける非常に大切な価値観になります。実は、部活動を通して学んだ「リスペクト」という言葉から、学校HPの学校長メッセージの巻頭言の『ミッションバリュー』は生まれています。目指す生徒像の5つのワード、「エンジョイ」「フレンドファースト」「フェア」「チャレンジ」そして「リスペクト」。

部活動は、部活動以外の時間を大切に、夢中になるものです。生徒の夢・楽しみ、教師の志・情熱、保護者の愛情・期待、すべてをリスペクトします。そして日常の中の素敵な時間をつくります。これが目指すべき部活動の環境だと考えます。

（学校長 重枝 一郎）